

HE IS BACK!

海外レポート アクアティック・ガーデナーズ・アソシエーション年次総会(アメリカ)

文・写真 海外貿易部 早川 望

写真 ジェイ・ルト、リック・ケイン

(Photography: Courtesy of Jay Luto & Ricky Cain)



11月11日はアメリカでは、Veteran's Day(退役軍人の日)の祝日。ワシントン市には、過去の戦役に従軍した多くの退役軍人が集り、記念碑に献花していた。市内にも、イラクやアフガニスタンなどに派遣されている家族の無事の帰還を祈る、黄色いリボンをつけた車が目立った。



ワシントンにあるナショナル動物園を訪れた際のスタッフ、アマゾニアの展示では、シラルク、アロガナ、ピラニアなどの魚類から、ヤドクガエルなどの両生類、ナマケモノなどの哺乳類、ユンゴインコやフキンチョウなどの鳥類を一室に見学でき、熱帯雨林の保護を考えさせるキャラリも併設されている。
(<http://nationalzoo.si.edu/Animal/s/Amazonia>)

アメリカのアクアティック・ガーデナーズ・アソシエーション(AGA <http://www.aquatic-gardeners.org>)は、全米および海外に850名以上の会員を有する、水草水槽の愛好家団体である。毎年、全米各地のローカル・クラブが運営役を務め、年次総会を開催している。3年前の2001年には、テネシー州チャタヌーガ市で開催された総会に天野が招待され、講演とワークショップを行った。今回、2004年11月12日から14日までアメリカの首都ワシントン郊外のホテルを会場に、地元のグレーター・ワシントン水草協会(GWAPA <http://www.gwapa.org>)の主催により、AGA年次総会が開催され、天野がメインスピーカーとして招待された。特別レポートとして、その時の模様を紹介しよう。

AGA Convention Report



(左下)ヤンD.バストマイヤー氏による、クリプトコリネの育成ワークショップの様様。彼のホームページの crypts pages(<http://132.229.93.11/Cryptocoryne/index.html>)は、日本の多くのクリプトコリネ愛好家の参考となっている。



今回の訪米は、アメリカの大統領選挙のすぐあとの11月10日に出発した。新潟県中越地震の影響で、上越新幹線は長岡 越後湯沢間で運転されておらず、新潟空港から羽田空港への臨時便での移動となった。成田から飛び立ったシカゴ行き、ユナイテッド航空884便には、日本人乗客は少なく、アメリカ人やアジア系の旅行者の顔が目立った。今回の総会の会場となるクリスタル・ゲートウェイ・マリオットホテルは、アメリカの首都ワシントン郊外のヴァージニア州アーリントンに位置している。ワシントンとは、ボトマック川を挟んで対岸にあり、アメリカ国防総省(ペンタゴン)からも車で数分にある。

大会は、初日(11日)夜の歓迎レセプションに始まり、2日目はメリーランド州ボルチモアのナショナル水族館と、地元のアクアリウムショップ・アクアリウムセンターへのバス旅行。夜はゲストスピーカーによる講演。3日

目も講演が続き、夕方には参加者による晩餐会、AGAの水草レイアウトコンテスト(International Aquascaping Contest 2004)の表彰式、そして最後に天野による水草水槽制作のワークショップ。4日目は、スポンサー企業などから提供されたアクアリウム商品、水草などのオークションで締めくりとなる。大会には、全米から集まるAGA会員の他に、ポーランド、ドイツなどからの参加もあり、全体として170名が集まった。今回、講演者として、発表をおこなったのは、天野のほか、オランダのクリプトコリネの権威、ヤンD.バストマイヤー氏(Jan D. Bastmeijer)、アメリカ人で、「Ecology of the Planted Aquarium」などの著作で知られるダイアナ・ウォールスタッド女史(Diana Walstad)、アメリカ・テキサス州ヒューストンでアクアリウムのメンテナンス会社、アクアリウム・デザイン・グループを運営する、マイク・センスキー氏(Mike Senske)、ミシジッピ州、

トウガルー・カレッジで生物学の教鞭をとる、ポール・クロムホルツ博士(Dr. Paul Krombholz)。そしてドイツのPlantella社で活躍するオリバー・ノット氏(Oliver Knott)がそれぞれの専門分野の知識を披露してくれた。

また、会場では、講演などの発表のほかに、AGAのTシャツなどのグッズの販売が行われ、スポンサーであるアメリカのアクアリウム関連企業による展示コーナーも設けられた。ADAも本大会に協賛し、グラッド・ソーラーを始めとするADA製品の展示を行い、同時に「アクア・ジャーナル」や、ADA総合カタログ、世界水草レイアウトコンテスト作品集などが無償で参加者に配付された。

大会3日目の午後に行われた天野の講演では、リラックスした雰囲気の中で、パワーポイントを使ってネイチャーアクアリウムのレイアウトの発想の原点である自



(左)ドイツのオリバー・ノット氏、ドイツでのアクアリウム・メンテナンスの仕事について話してくれた。(中央)天野の右に立っているのがガザンファー・ゴリ(Ghazanfar Ghorri)氏。GWAPAの会長で、今回の総会運営の責任者。会社から一週間の休みをとり、総会の運営にあたってくれた。





天野のネイチャーアクアリウム制作ワークショップ、解散を加えながら、2時間の工程。終了した時には、夜の12時をおもっていた。参加者がボランティアとして、水草の仕分けを手伝ってくれた。制作工程の様子は、参加者のウォルター・ウー(Walter Wu)氏がまとめてくれた。CAPE(Carolina Aquatic Plant Enthusiasts)のホームページに詳しく掲載されている。(http://www.fishclubs.com/nc/cape/articles/amano2004/index.html)



然風景から着想して水景をつくり出す考え方が説明された。参加者からは多くの質問が寄せられ、それに対して、天野がジョークを交えながら答えていた。講演の後半は、天野の自宅のビオトープの庭園と4mの超大型ネイチャーアクアリウムの制作工程も紹介され、会場からは驚嘆と同時に賞賛のため息が聞こえる。天野もここぞとばかりに「日本人は月には行けないかもしれないけれど、きれいな水槽はつくれる!」とアメリカ人の聴衆相手にジョークを飛ばすと会場から大きな笑いを誘っていた。そして、講演が終了すると、参加者全員が立ち上がったのスタンディング・オベーションで、日本から来て、講演してくれたことに対する感謝の気持ちを表してくれた。

晩餐会を是らして、3日目の夜8時からは、AGA本部からの挨拶や、主催者であるGWAPAへの謝辞が述べられ、引き続きAGAの水草レイアウトコンテスト

(International Aquascaping Contest 2004)の表彰式が執り行われた。詳しいエントリー作品の紹介と、各賞の受賞者の紹介は、AGAのホームページに掲載されているので、そちらを参照していただきたい。ちなみに最優秀賞には、ドイツのオリバー・クノット氏の作品が選出された(http://showcase.aquatic-gardeners.org/2004.cgi)。3日目の最後、夜の10時からは今大会のメインイベントである、天野によるネイチャーアクアリウムの制作実演が行われた。会場の中心に、ウッドキャビネットとADAキューブガーデン90Pが設置され、会場の雰囲気も盛り上がってくる。参加者も少し見逃すまいと、水槽の前に座り、メモや写真をとっている。今回、3年前の大会と違い、水草以外の水槽器具はあらかじめ2カ月に貨物便で輸送していたため、参加者には日本で天野が水景を制作するのと同じ状況を見てもらうこと

ができた。天野は黒のブルゾン姿で、前景にブライトサンドを敷き、流木にはウィロームスとポルピティス、流木の間にウィロームスやアヌビアスを付けた小型の富士石を配し、典型的な凹型構図のネイチャーアクアリウムをつくり上げていった。天野からは「左右対称にならないように注意すること」や「アヌビアスの配置は必ず奇数の数を準備すること」などのレイアウトでの基本的なテクニックから、背景に植栽する有茎草のトリミングの方法などレイアウトの維持についての解説も行われた。雰囲気は終始和やかで、途中、ウィスキーの水割り为天野に差し入れされた。レイアウト制作の最後にグランドソーラー1が点灯されると、参加者から大きな拍手が寄せられ、多くの参加者が天野との記念撮影に納まっていた。



(左上) 会場では、天野の写真集「The Rio Negro」が販売され、準備した50部が瞬く間に完売した。天野の著書にサインを依頼する愛好家も数多くいた。(右) ワークショップ開始前の天野の「女性の愛好家の方、全員集合!」の一言で実現した、スナップショット。どここの国でも、女性への浸透が水草水槽の普及の力となる。



今回の訪問でも多くの愛好家との素晴らしい出会いがあった。再会した人も多く、水草談義に花が咲いた。多くの参加者が日本のネイチャーアクアリウム・ギャラリーの訪問を希望していた。参加者の水草水槽への熱い思いに設備。

AGA
http://www.aquatic-gardeners.org

AGA年次総会とアメリカの水草水槽シーン

AGA年次総会のように、海外で天野に講演依頼がある度に、同行していた筆者であるが、毎回、各地で水草水槽の愛好家の歓迎を受け、参加者の情熱には、本当に驚かされている。特にAGAの総会には、170名もの会員が全米各地から参加し、ホテルに3日間泊り込みで、海外から講演者を招待し、総会を毎年開催しているということにたいへん感銘を受けた。広大なアメリカ大陸では、西海岸から東海岸のワシントンまで飛行機で来るだけでも費用と時間を費やしてしまうのである。アメリカは多民族国家で、自主独立の精神が人々の精神に息づいている。このワシントンの会場に集った会員たちは、会員同士、胸襟を開いて、水草アクアリウムに関する自分の知識や経験、水草採集の旅行

体験などを語りあっている。自分の心を開き、相手との接点、共通の話題を探しながら、自分の意見や考えを述べ合うAGA会員の姿に接して、日本の和を大切に社会とはまったく異質の、個性を大事にする社会、アメリカの多民族故の人々の考え方に触れたことは、とても有意義であった。アメリカの趣味としての水草水槽は発展途上であるが、これには、植物検疫の問題で、海外の水草ファームから良質な水草の輸入ができないなど、一朝一夕に解決できない制度上の障害もあるが、次第にフロリダ州の水草ファームからの供給などが改善されつつあり、水草水槽がブレイクする素地はできつつあると感じている。今後、アメリカで水草水槽が普及する上で、AGAの活躍に期待したい。